

平成 29 年度 次世代型図書館づくり計画骨子策定業務

富谷市の図書館について語り合う シビックミーティング報告書

アカデミック・リソース・ガイド株式会社

富谷市の図書館について語り合う

シビックミーティング報告書

1. シビックミーティング概要

1-1. 目的

平成 29(2017)年 12 月に策定された「(仮称)富谷市民図書館整備基本構想」(案)を基に、富谷市在住・在勤・在学者、UI ターン希望者と議論を深化させていきます。

1-2. 実施日時、会場

日時:平成 29 年(2017 年)12 月 9 日(土)14:00~15:30

場所:富谷市役所市民交流ホール

1-3. 参加者

117 名

1-4. プログラム

14:00~14:05 開会の挨拶 富谷市長 若生裕俊氏

14:05~14:25 計画骨子(基本構想)説明

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 鎌倉幸子

14:25~15:25 意見交換

【返答者】

富谷市長 若生裕俊氏

富谷市教育委員会 教育長 菅原義一氏

生涯学習課富谷中央公民館長兼富ヶ丘公民館長兼東向陽台公民館長兼

あけの平公民館長兼日吉台公民館長兼成田公民館長 阿部雄也氏

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 岡本真

15:25~15:30 閉会の挨拶 富谷市教育委員会 教育長 菅原義一氏



2. ご意見・質問と返答のまとめ

参加者のみなさまからいただいたご意見・質問と、それを受けた返答のポイントをまとめました。

■に続く文章は、参加者のみなさまからのご意見・質問です。〈返答〉に続く文章は、ご意見・質問を受けての返答を示しています。

ご意見・ご質問及び返答の詳細(全文)は、4 ページ目からの「3. 議事録」をご覧ください。

- 富谷市次世代型図書館づくりに向けた市民参加ワークショップ事業の報告書にある「次世代型図書館に求められる役割」と(仮称)新富谷市民図書館整備基本構想(案)にある「基本指針」との連動はどうなっていますか。

〈返答〉

市民参加ワークショップ事業の報告書の「次世代型図書館に求められる役割」で、内容が類似するものを統合したり、理念へ格上げしたりする等、情報の整理をして基本構想(案)の「基本指針」に反映させました。

- 次世代型図書館の定義はどうになりましたか。

〈返答〉

富谷市の、新しい時代、次の時代につながっていくような図書館を考えていきたいと思い「次世代型」という言葉を使いました。ただ、「次世代型図書館」という言葉が、ひとり歩きしやすいことを考慮し、今回の基本構想(案)では使用しませんでした。

- 成田公民館の敷地面積はどれくらいですか。広さは十分でしょうか。

〈返答〉

敷地面積は 13,400 平米です。既存の建物の 1 階部分の床面積は、1,875 平米です。建物は総敷地の 7 分の 1 しか占めていないので、駐車場の含め、施設の増築のための土地は十分にあると考えています。

今後、具体的な施設の延床面積、敷地面積、工事面積は、基本計画の段階で確定されます。

- 蔵書冊数はどの程度を見込んでいますか。

〈返答〉

図書館で行うサービスを決め、その実現のためには何冊の所蔵が必要か割り出していきます。具体的な活動を定めるのは基本計画策定時となります。

- 新しく建てられた大崎市図書館は広く、研修室やホールも持ち合わせています。これくらいの設備がなければ、富谷市の進化した次世代図書館としてはふさわしくないと考えます。

〈返答〉

図書館を建てる費用だけではなく、50年間利用し続ける前提でライフサイクルコストを考え、施設計画を立てていきます。

限られた市域である富谷市において、大きな施設をつくるのではなく、既存の施設を生かしながら、地理的な分散性を持たせることで、住民のみなさまに公平なサービスを提供することに重きを置きました。

- 旧市街地のロケーションに、富谷市の歴史を受け継ぎ、守り、つないでいく拠点として図書館を整備してはいかがでしょうか。

<返答>

富谷市は、各地区にそれぞれ歴史があり、自分がお住まいの地区に強い思いを持っている方が多いと感じています。だからこそ、しんまち・宿場町エリアも含め各地区にある公民館図書室を生かしていくことを検討しています。

- 新しい図書館を待たずとも、いまできることとして富谷市の公民館図書室に蔵書検索ができる端末機を整備してもらいたいです。

<返答>

各公民館図書室に、蔵書を検索できるPCを設置しています。また、ご自宅のパソコンや携帯でも、公民館図書室の蔵書を検索できる仕組みになっています。

- 新しい図書館に整備される検索端末では、宮城県図書館の蔵書が検索できるようにしてもらいたいです。

<返答>

今後、検索端末に入れたい機能について話し合い、みなさまにとって使いやすいシステムとは何かを考え、基本計画に反映させます。

- 乳幼児や未就学児への読み聞かせコーナーを置く等、小さい子どもたちを大切にもらいたいです。

<返答>

子どもたちに投資することは、未来に投資することなので富谷市としても力を入れていきます。乳幼児や未就学児に対して、提供する図書館のサービスの内容は、基本計画に示していきます。

- 蔵書が豊富な仙台市の図書館を利用させてもらい、富谷市としてなるべくお金を使わないようにしてはいかがでしょうか。

<返答>

連携する図書館同士、対等なサービスを提供し合うのが一般的です。今後、仙台市と話し合いの場を持ち、どのように連携するのか調整することになります。

- センター館と公民館図書室のシステムと、学校の図書館のシステムとをつないでもらいたいです。

<返答>

富谷市内にある小学校、中学校、富谷高等学校図書館と、センター館、将来的には図書館の分館となる公民館図書室とをネットワークでつないでいきたいと考えています。

- 公民館は、どのように改装されますか。

<返答>

生涯学習の拠点や集いの場としての機能を維持しながら、センター館や図書館の分館としても機能するように、リノベーションを行う計画です。

3. シビックミーティング議事録

開会の挨拶及び閉会の挨拶、意見交換時にいただいた質問と返答全文を示した議事録です。

3-1. 開会の挨拶 富谷市長 若生裕俊氏

本日は、土曜日のお昼時間にもかかわらず、多くのみなさま方のご参加をいただき富谷市の図書館について語り合うシビックミーティングを開催できますことを、心より御礼を申し上げさせていただきます。

富谷市の図書館づくりにつきましては、市制移行に向けた総合計画策定の段階から、アンケート調査や地区懇談会等を通じながら、多くの方々が図書館を必要としていることが分かりました。

みなさまのご意見を踏まえて、昨年度、ワークショップやシンポジウムを開催しました。そのワークショップやシンポジウムを踏まえ、今年度はそこでの議論を引き継いで、アイデアキャンプや先進地視察を行い、どんな図書館が富谷市のみなさまに求められているのだろうか考えました。

今回、富谷市民図書館整備基本構想(案)を取りまとめさせていただきました。今後の計画づくりに向けて、さらにみなさま方のご意見をいただき、「みなさまと共につくりあげる図書館」を進めていければと思っています。

本日は貴重な機会になるかと思いますので、忌憚のないご意見をいただき、富谷市の図書館づくりに関して語り合う場となればと思っています。

昨年度から図書館づくりのための意見集約や基本構想(案)づくりにご尽力いただいているアカデミック・リソース・ガイド株式会社の岡本代表と鎌倉さんには本日も、お世話になります。

改めて、心より感謝いたしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

3-2. 計画骨子(基本構想)説明 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 鎌倉幸子

添付資料 1「富谷市の図書館について語り合うシビックミーティング(仮称)新富谷市民図書館整備基本構想(案)について」に基づいて説明をしました。

3-3. 意見交換

参加者に呼びかけ、(仮称)富谷市民図書館整備基本構想(案)に対するご意見・ご質問をいただきました。

ご発言を受けて、若生市長、菅原教育長、阿部公民館長及びアカデミック・リソース・ガイド株式会社(以下、ARG)の岡本が返答をしていきました。

【ご意見・ご質問】

富谷市次世代型図書館づくりに向けた市民参加ワークショップ事業の報告書にある「次世代型図書館に求められる役割」と(仮称)新富谷市民図書館整備基本構想(案)にある「基本指針」の連動はどうなっていますか。

(仮称)新富谷市民図書館整備基本構想(案)にある「基本指針」は抽象的なので、市民参加ワークショップ事業の報告書にある「次世代型図書館に求められる役割」のほうが具体的で分かりやすいと思います。

【ARG 返答】

ワークショップの報告書にある「市民が集うサードプレイスとしての図書館」を、基本構想(案)の「富谷市での暮らしを豊かにする場所」に組み入れる等、情報の整理をしていきました。

ワークショップ報告書にあった「世代のバトンが循環していく図書館」「世代のバトンが循環していく図書館」は、普段から人々が交わり合う場所を示しており、それは役割ではなく理念であると考え、構想(案)では「市民と市民が交流するまちの図書館」と理念に格上げをしました。

指針は観念的な表現だったので、書かれていたことを再定義して、今回の基本指針をまとめました。

【ご意見・ご質問】

ワークショップの報告書にあった「次世代図書館」の定義はどうなったのでしょうか。

【ARG 返答】

基本構想(案)の中では、「次世代型図書館」をあえて用いていません。なぜなら、「次世代型図書館」という言葉が、ひとり歩きしやすいことを考慮したからです。

市長が「次世代型」という問いを発したのは、電子図書館のような施設をつくりたいという発想からではありません。市長は、せっかく新しい市となった富谷市において、従来の図書館を施工するのではなく、「このまちにふさわしい姿とは何か」と、問いかけられたのではないのでしょうか。

今回の基本構想(案)は、オーソドックスにして、極めて革新的な内容となっています。次世代への贈り物としての図書館像が、この基本構想(案)にまとめられています。

【若生市長返答】

富谷市の、新しい時代、次の時代につながっていくような図書館を考えていきたいと思い「次世代型」という言葉を使いました。

昨年度から2年間、図書館づくりに向け進めている中で「次世代」という言葉に引っかかりが出てきたので、基本構想(案)の中であえて使わないことにしました。

【ご意見・ご質問】

成田公民館は、どこの団地からもアクセスしやすく、まちの真ん中にあるので、よいと思いましたが。ただ、あの面積で、十分な蔵書を置けるのか、図書館本来のスペース、ブラウジングスペース、喫茶コーナー、若者が楽器を持ってきて練習する等の活動スペースが確保できるのか心配です。ふれあい広場を含む空白の部分の面積を知りたいです。

また、蔵書冊数はどの程度を見込んでいますか。

【ARG 返答】

成田公民館にセンター館を設置する決定的なポイントは、市に唯一ある富谷高等学校の存在でした。高校がない自治体が日本中に、増えています。高校を失うと、そのまちの活気は失われていきます。15歳で子どもたちがまちを出てしまうと、結果、子どもたちは故郷に戻ってこず、人口減少に歯止めがかからなくなります。

富谷市で、3年間を過ごす子どもたちが、徒歩でも自転車でも行きやすい場所にセンター館を置くことが好ましいと考えました。

施設の延床面積、敷地面積、工事面積は、基本計画の段階で確定されます。基本計画策定のプロセスにおいて、図書館の中でどの様なサービスを行うのか、そのサービスを行うためには所蔵冊数はどれくらい必要かと、具体的な諸条件を洗い出していきます。その諸条件から、最低限必要な面積はどれくらいかを割り出していきます。

現在の成田公民館の敷地は、スペース的に十分ではないかと考えます。成田公民館の周辺には、建物がなく、道路で遮られていないので、増改築をするにしても建築基準法の制限を受けにくいと判断しました。逆に、住宅街の中にある他の公民館施設の場合、法の規制に引っかかり大きな施設をつくるのは困難ではないかと考えました。

昨今の施設整備の流れの中で、これからの図書館は「進化した公民館」とあるといわれることがあります。そのためにも、新しい施設には、図書館と公民館の両機能を併せ持たせる必要があります。その点においては、成田公民館を増改築することで、図書館と公民館の機能を備えた施設となり得ると考えています。

他の公民館についても、図書館の分館と位置付けて大幅なリノベーションをすることで、既存の公民館活動と図書館の活動が相まって、より高い成果が引き出されるのではないのでしょうか。

青少年の音楽活動についてご意見をいただきましたが、図書館で借りた楽譜を利用して、公民館の部屋で音楽の練習ができるでしょう。このように、市民のみなさまの市民活動がより豊かに展開されていくと予想されます。

【菅原教育長返答】

成田公民館の敷地面積は13,400平米です。既存の建物の1階部分の床面積は、1,875平

米です。建物は総敷地の7分の1しか占めていません。

成田公民館の敷地内には、ふれあい広場の他に、芝の広場、ゲートボールで使っていたグラウンドもあるので、駐車場を含めた環境整備も十分可能だと捉えています。

【ご意見・ご質問】

大崎市の新しい図書館は、大きくて広いのですが、駐車場が足りていません。ちょっとした駐車場のスペースを設けるだけでは足りないと思います。

また、大崎市図書館には、大きな研修室やピアノや舞台装置が置かれている多目的ホールがあり、地域の伝承芸能活動の練習場所になっています。防音装置が整備された研修室等ないと、住みたくなる日本一のまち・富谷市の進化した次世代の図書館としてはふさわしくないと考えます。

【ARG 返答】

大崎市図書館は、図書館の部分の建設面積が4,257平米、延床面積は6,335平米もある、非常に大きな施設です。1階に多目的ホール、2階に研修室があり、公民館の機能も有しています。

今回、基本構想(案)の策定において、将来的に無理のない財政運用か否かを考えました。現在は人口が増えている富谷市も、2040年には人口減に転じるといわれています。人口が減れば、税収と地方交付税交付金が減ります。

施設計画をする際、ライフサイクルコストを考えなければいけません。公共施設を新規につくった場合、純粋木造建築でない限りは、50年間は利用し続けるという前提に立ちます。50年間にかかるコストは、建てた費用の5倍といわれています。たとえば、10億円で建てられた施設は、運用費がその5倍の50億円かかります。そうすると、施設整備から運用を合わせるとかかる費用は、都度60億円となります。施設の運用負担が自治体経営を圧迫する可能性も出てくるのです。

合併せず市制移行した富谷市では限れた市域の中で、既存の施設を生かしながら、地理的な分散性を持たせることに重きを置いた方がよいと考えました。

子どもたちは、自動車の運転ができません。また、免許返上したシニアも、交通弱者になりえます。センター館を設置しつつも、公民館図書館をリノベーションして充実させることで、地域全体で落差のない公平性のあるサービスを提供することが大切であると考えました。

市には図書館が設置されることが原則になっています。まずは、「図書館がある市」の状態を早期に実現してはいかがでしょうか。

【ご意見・ご質問】

富谷市には、2020年には400年を迎える、富谷宿という歴史があります。

発展している成田地区ではありますが、図書館は、市役所周辺の旧市街地のロケーションに、富谷市の歴史を受け継ぎ、守り、つないでいく拠点として整備してはいかがでしょうか。旧市街地だと、散歩をしたり、富谷市ブルーベリー生産組合に寄ったり、代官松を見ることもできます。

ただ、成田地区の立地条件がよいことは事実です。成田地区に図書館ができるのであれば、音楽やダンスができる部屋やホールが入る複合施設にしてはいかがでしょうか。富谷市が力を入れているマーチングバンドの練習や、富谷高等学校の生徒たちの文化活動に役立つ施設となるでしょう。

富谷市の魅力が発見できる場所に、図書館をつくっていただきたいです。そして、ふるさと・富谷市を、次世代の方々に受け継いでもらいたいと考えています。そのためにも、学校との連携も進めていただきたいです。

地域住民の生涯学習の実現に資するとともに、図書館でのさまざまな活動を通じて地域のつながりや絆を強化されることを願います。その実現のために、施設を建てるだけでなく、生涯学習の創造を目指し、しっかりとした生涯学習推進計画を立てて取り組んでください。

【ARG 返答】

富谷市は、各地区にそれぞれの歴史があります。また、自分がお住まいの地区に、強い思いを持っている方が多いと感じています。宿場があったしんまち地区にお住まいの方々は、この地区に誇りや魅力を感じているでしょう。同時に、新しく切り開かれた地区にお住まいの方々は、自分の地区に愛着を持っています。だからこそ、各地区にある公民館図書室を図書館分室へと拡充して、一定の拠点をつくりたいと考えました。

市民のみなさまの中には「自分の住んでいる地区には公民館もない」という方々もいるのではないのでしょうか。図書館にはスポットというサービスがあります。決められたスポットに、お求めのあった本を届ける仕組みです。不公平感のない施設配置やサービスの提供を考慮し、基本計画を策定する必要があります。

昨年度支援をしたワークショップで、新興住宅地の子育て中の方から「私たちは移住者だから富谷市の歴史は知らない。でも、子どもにとっては、富谷市が自分の故郷になるので、歴史や文化をきちんと身に付けてほしい。だからこそ、図書館には郷土資料をきちんと置いてほしい」という声をいただきました。富谷市の歴史を受け継ぎ、守り、つないでいくためにも、きちんとした文化機関の整備を求める声でした。

【菅原教育長返答】

公民館が6館あるのは富谷市の特長です。公民館は、人と人が出会い、新しいコミュニティが生まれる拠点になっています。生涯学習の推進や発信についていただいた意見は政策の中で

生かしていきます。

学校との連携については、図書館を中心に位置付けながら、学校図書室とネットワークでつないでいきたいと考えています。

【ご意見・ご質問】

基本構想(案)策定に至るまでの経緯を知りました。また、すばらしい構想(案)だと思いました。構想(案)の中に、図書館ができるまでにはあと3年がかかると示されていますが、いまずぐにできることもあると思います。

私自身、近くの公民館を利用していますが、蔵書を検索できる機械がありません。蔵書検索と予約ができる端末機を、まずは整備してはいかがでしょうか。

宮城県図書館に行ったら、職員が、私が探している本は富谷市の公民館図書室にあると教えてくれました。もし、富谷市の公民館図書室に端末が入ったら、宮城県図書館の蔵書が検索できるようにしてもらいたいです。

【阿部公民館長返答】

各公民館図書室に、蔵書を検索できるPCを設置しています。また、ご自宅のパソコンや携帯でも、公民館図書室の蔵書を検索できる仕組みになっています。

ただシステム上、本の予約はできません。その面では、ご迷惑をおかけしています。

【ARG 返答】

時間とコストをある程度かければ、システムの導入は可能かと思われます。そのためにも、システムからの予約等、どのような機能があると便利かを考え、基本計画に反映させます。

こんな機能があれば便利に感じる、という意見をたくさん出していただき、みなさまにとって使いやすいシステムを構築していくことが大切です。

【ご意見・ご質問】

基本構想(案)の中に、乳幼児等、小学校に入る前の子どもたちへ、読み聞かせをやるような図書館スペースについて触れられていますか。

小学校、中学校、富谷高等学校との連携については触れられていますが、小学校に入るまでの児童の視点が欠けているのではないのでしょうか。

【ARG 返答】

基本構想(案)の6ページ目にある基本指針「3) 子どもの成長を応援する場所」は、乳幼児、や未就学児も含めた子どもへのサービスの提供を考慮したものとなっています。

富谷市は、子どもが多いまちです。そして図書館は、子どもたちを大切に育てていくためにも、大切な役割を担います。

乳幼児や未就学児に対して、図書館が何を行うのかを基本計画の中にきちんと書き込む必要があります。いくつかの自治体は、赤ちゃんの健診に合わせて絵本をプレゼントするブックスタートを実施しているところもあります。財源を考慮しながらも、富谷市らしいモデルを探っていく必要があると思います。

【ご意見・ご質問】

宮城県図書館との連携が基本構想(案)では示されていますが、仙台市の図書館との連携もできるのではないのでしょうか。実際、富谷市民は仙台市にある図書館を利用できます。

そして、実際、仙台市の図書館は蔵書が豊富にあります。仙台市の蔵書を利用することで、富谷市としてなるべくお金を使わないようにしてはいかがでしょうか。

【ARG 返答】

図書館法では、図書館同士、協力し合うことが義務として規定されています。また、国籍や居住地を問わず、誰がどこの図書館を使ってもよいとされています。

仙台市泉図書館や近隣自治体の図書館と良好な関係をつくり、どのようにお互いのサービスを相互乗り入れさせるかは、基本計画策定時のポイントになると思います。

意識していただきたいのは、現在、富谷市に図書館がないので、仙台市のご配慮によって、富谷市民の図書館利用が可能になっています。今後、富谷市民図書館(仮称)が設置されると、仙台市から「富谷市も自前で図書館を設置したのだから、もういいでしょ」といわれる可能性も、ゼロではありません。

この場合、お互い対等なサービスを提供し合うのが一般的です。富谷市民が仙台市の図書館を利用しているように、仙台市民にも富谷市の図書館を使い、本を借りてもらおうようにすると、対等な関係が生まれます。

ただ、仙台市と富谷市は予算規模が全然違うので、慎重に判断したほうがよいと考えます。100万人の仙台市民が一斉に富谷市の図書館に来て本を借りたら、富谷市の図書館は空っぽになってしまいます。今後、仙台市とどのように助け合っていくか話し合い、調整する必要があります。

また、旧黒川郡で初めてきちんとした図書館が設置されるのが、ここ富谷市です。大和町等の住民から、富谷市の図書館を利用したいといわれた場合、どうするのか決める必要も出てくるでしょう。

市民のみなさまの考えをうかがいながら、望ましい連携のあり方を近隣自治体の関係者とじっくり話し合いながら決定し、今後の基本計画に反映させるとよいと思います。

【ご意見・ご質問】

富谷市の小学校・中学校の図書館はシステムでつながっており、相互貸借等、連携が取れています。本の予約をすることもできます。富谷市が調べる学習で実績を重ねてこられたのは、学校図書館のシステムのネットワークがあったのが大きいと思います。

センター館と公民館図書室がつながるだけでなく、学校の図書館もシステムでつないでもらいたいです。センター館、公民館、学校がシステムでつながることは、富谷市の図書館の特色になると考えます。予算面の課題もあるかと思いますがご検討ください。

【菅原教育長返答】

学校とのネットワークですが基本構想(案)の9ページに、学校との連携を示しています。

富谷市内にある小学校、中学校、富谷高等学校の図書館との連携を十分に考えて、ネットワーク形成をしっかりとしていきたいと考えています。

将来的には、学校以外にも、病院や地域コミュニティとのネットワークの構築も検討します。

まず一番現実可能なのが小学校、中学校図書館とのネットワークだと思いますので、そこから手掛けていきたいと考えています。

【ARG 返答】

学校図書館との連携は非常に大切だと思っています。子どもたちが学校図書館にしながら、センター館や公民館図書室にある本を取り寄せ、次の日には学校図書館で受け取れるようにする仕組みができると、かなり特色があり、画期的なサービスになります。

【ご意見・ご質問】

成田公民館は公民館としてつくられているので、図書館向けの間取りになっていません。広く開いているスペースは、蔵書を置く場所になると思われますが、他の場所に、図書館として機能するために十分な広さがあるのか不安です。

公民館がどのように改装される予定なのか示していただきたいです。

【菅原教育長返答】

成田公民館は、十分はスペースがあると思っています。建物の増築や駐車場の増設のためにも十分な敷地があると考えています。

富谷市の公民館は、地域の生涯学習の拠点であり、地域住民のみなさまに活用されている施設です。生涯学習の拠点や集いの場としての機能を維持しながら、図書館の分館としてリノベーションを行いたいと考えています。

近年、リノベーション業界は大変活発だと聞いています。多様なアイデアを持っている方々から、増築する建物と既存の建物全体のリノベーションの提案をいただきながら、的確な事業者を選定していきたいと考えています。

3-4. 閉会の挨拶 富谷市教育委員会 教育長 菅原義一氏

長時間にわたり熱心に提案をお聞きいただき、また活発なご意見・提案をいただいたことに感謝します。

これから図書館の整備を進める上で大切なのが、市民のみなさまと共に進める「市民協働」という点です。今日は基本構想(案)に対して、ご提案をいただきました。これからも継続してたくさんのご意見をいただきながら、みなさまのための図書館づくりを進めてまいります。

「子どもたちのために」という貴重なご意見をたくさんいただきました。子どもたちに投資することは、未来に投資することです。いわゆる「循環型の社会」をつくるための基本となることです。住みたくなるまち日本一の実現のためにも、しっかりと子どもたちに投資していくことが大切だと思っています。学童だけではなく、未就学児、学童期を終えた中学生や高校生、大学生の成長にしっかりと貢献できる図書館にしていきたいと考えています。

調べる学習コンクールで、小中学生から 1,700 件を超える作品集まりました。1、2 次審査を行い、33 点の優秀作品を東京都で行われる中央審査に送りました。その中に、富ヶ丘小学校の児童が図書館について調べた作品がありました。最近読んだ、図書館関係の本の中で一番参考になりました。アレクサンドリア図書館の蔵書数、Library of the Year とはどのような賞なのか、とても詳細に書かれていました。この作品の最後はこう締めくくられています。「小学生の自分たちが、自分たちだけで行ける場所にある図書館がほしい」と。

文部科学省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」にあるように、センター館を含め公民館図書室 6 館と連携し、みなさまの生活圏に図書館があるということをぜひ目指していきたいです。障害がありなかなか図書館に出向けない方々、小学生の方々、子育て中の方々等、全世代の方々に貢献できる図書館を目指していきます。

ぜひこれからもみなさまお力をお借りしたいです。それが、私たちの図書館建設の一番の励みになりますので、一層のご協力とご支援を改めてよろしくお願いします。

以上